III　大川の将来構想

大川等整備の基本的考え方

１．経緯・意義

準用河川大川は、野洲川新川の通水以降流水がなくなったことから水質の悪化や水草の繁茂が進み、その環境改善は地域住民の永い間の願いでした。

また、大川を中心とする湖岸一帯は県内有数の景勝地であり、ハマヒルガオの自生地や美崎公園などの地域資源にも恵まれ、その活用と魅力化は守山市にとっての大きな課題となっています。

このため、京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所、立命館守山中学校・高等学校、守山市、美崎自治会の４者は「大川活用プロジェクト」を組織し、大川の望ましい環境整備のあり方や大川を中心とする地域の活性化策を議論してきました。

「大川等整備の基本的考え方」はこうした経緯のもとに取りまとめたものであり、今後、フォーラムでの意見などを踏まえながらより具体の整備の計画とする予定です。

なお、大川活用プロジェクトの取り組みは、地域の課題への住民の主体的な参画のもと、行政や研究・教育分野が連携し、ともに知恵を出し合いながら将来のあり方を構想する新しい地域づくりの手法として意義あるものと考えます。

２．整備の基本方針

①大川の水質と生態系の改善・回復を図る。

②大川を上・中・下流の三つのゾーンに区分し、特性に応じた環境整備を進める。

③大川とその周辺地域の多様な資源（川・自然・産業・公園など）を地域の魅力化や活性化に活かす。

３．整備の方針

１）水質と生態系の改善・回復

整備の方針：大川の水質と生態系の改善・回復は最も重要な課題であり、次の取り組みなどを進める。

取組み事例：水質改善のための他水系から導水
・繁茂する水草や外来魚の除去

２）大川の環境整備

○大川再生ゾーン（旧大川橋上流部）

整備の方針：砂浜があり、水が流れ、小魚の泳ぐ川を再現し、子ども達も水に触れ、川を楽しめるゾーンとしての整備する。

取組み事例：浚渫や覆砂で河川敷の環境を改善
・大川の水害の記憶を新にする木造橋（旧大川橋）の再現

・植樹や休憩所等を整備し、琵琶湖と地球市民の森を結ぶ休憩拠点としても活用

○回廊ゾーン（旧大川橋から概ねさざなみ街道の接点まで）

整備の方針：再生大川ゾーンと河口部ゾーンを結ぶ回廊と位置づけ、沿川の修景、沿道の環境整備等を進める。

取組み事例：植樹等での沿川の整備・修景

・狭隘部には水中遊歩道を設けるなどプロムナードとして整備

○大川河口部ゾーン（大川河口部）

整備の方針：湖と川の水景を楽しむ憩いと交流の拠点としての整備する。

取組み事例：水上眺望テラスの整備

・なぎさ公園・ラフォーレ・ピエリ等一帯の集客施設を結ぶ接点として周遊遊歩道（河川内の遊歩道を含む）を整備

・通水能力を高めるため河口部は琵琶湖を含め浚渫・整地

・水機構の水位調節施設は撤去を提案

3）オープンミュージアムの整備

整備の方針：川、琵琶湖、農水産業、学習施設など恵まれた資源を活かし、環境学習や都市との交流の拠点として整備する。

取組み事例：美崎公園を拠点に新川・湖岸・大川・農業地帯を巡り、水環境や植生、農村地帯の生活文化等を体感するゾーンを設定

・美崎公園に学芸員やボランティアを配置し、環境学習や自然体験をサポートするオープンミュージアムを整備

4）関連事業

①県道今浜水保線を琵琶湖と地球市民の森を結ぶ回廊として位置づけ、サイクリングロードの整備や花や緑で沿道を修景

②周辺立地企業等と連携し、大川やオープンミュージアムを活用したイベントを企画

③大川の水域での温水性魚類の生息環境整備、ハマヒルガオ自生地や菜の花畑等を含めた観光資源化など地域資源の有効活用

4．今後の進め方

○「大川等の整備計画」の策定

（計画内容）

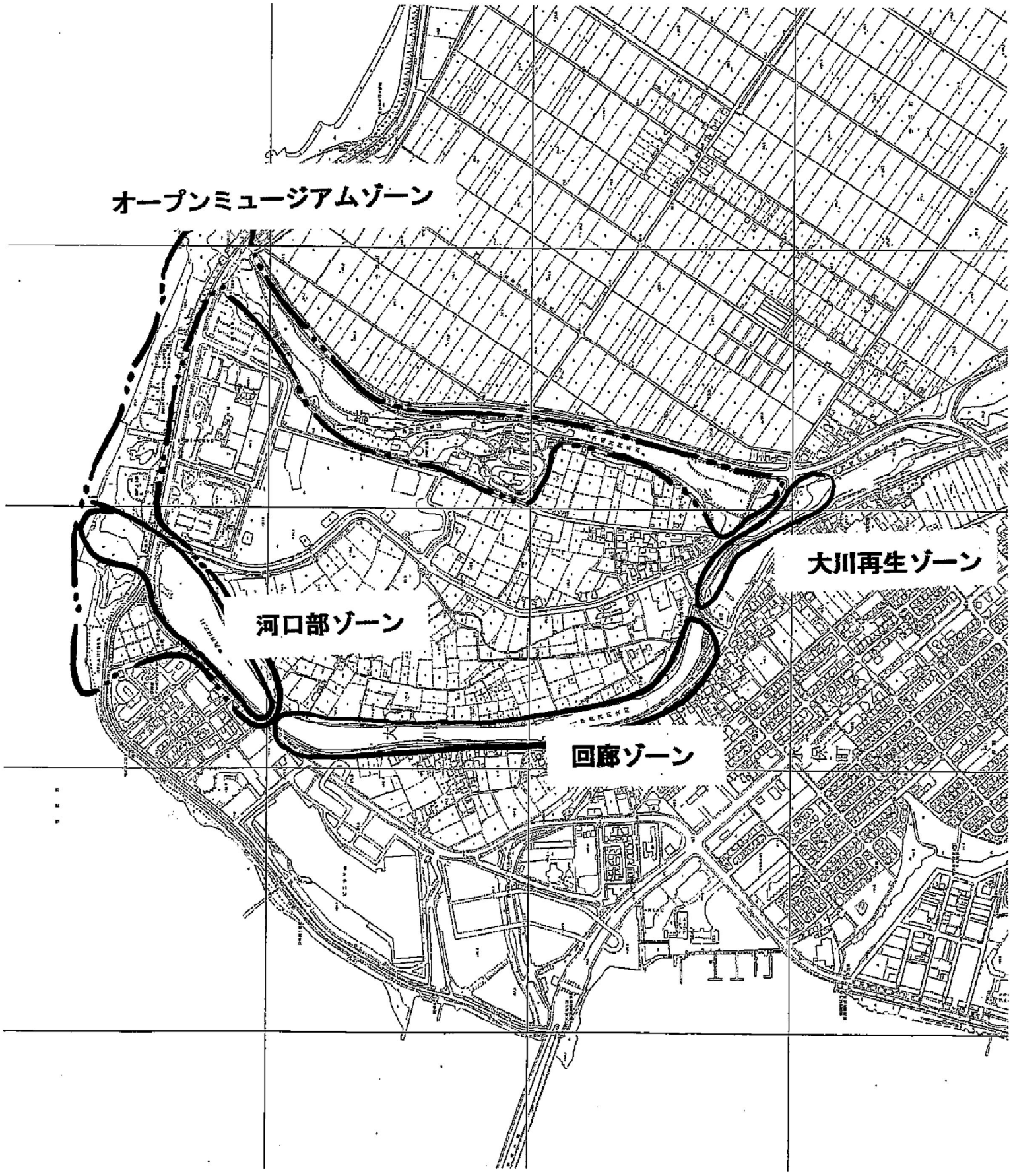
・整備計画

・整備事業

・推進組織　等

○取り組み体制の整備

大川の環境整備・構想図



大川河口部ゾーン
回廊ゾーン
大川再生ゾーン

大川河口部ゾーン

回廊ゾーン

サイクリングロード・散策路のようす

大川再生ゾーン

IV　第２回大川フォーラム（パネルディスカション）記録

第２回大川フォーラム（パネルディスカッション）の記録

平成 25 年 1 月 19 日

【開会】

（安藤）今日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

昨年に引き続き、第２回をむかえて私自身も嬉しく思います。前置きはやめて、すぐに本題のほうに入りたいと思います。横に宮本市長がいらしておりますので、全体を聞かれていないですけれど、先程の挨拶に、付け加えるところがありましたらお願いします。

（市長）付け加えるという話ですが、皆さんご存知の通り大川というのは昔の野洲川の南流でありまして、昔の姿というのは今見ることは出来ないわけでございますが、是非、昔のおかずとりをした、本当に地域の、災害がありますけれども、皆さんが水に親しんでいただける、そんな環境がこの大川再生の事業の中で、取り戻せたらなというふうに思っています。近代化の中で失われてしまったものを取り戻すのは、大切な事だと思っております。それをまた、子ども達、後世に繋いでいくのも私達の役割だと思っています。そういった意味も含めて、取り組んでいきたいなと思っております。

また、立命館の高校生が、底に溜まった土を取ってきて固めて、それを水に戻す事によって水質改善をしようとか、空芯菜を植えたり、様々なトライをされています。本当に素晴しいなと思っております。すぐには、なかなか水質改善とはいかないと思いますが、色々試行錯誤を重ねながら、我々の出来る限りやっていきたいと思っております。皆さん力を合わせて、大川の再生、そして先程もありました、オープンミュージアム構想を是非、実現をしていきたいなと思います。

（安藤）どうもありがとうございました。

それでは、あまり時間もないものですから、皆さんのお手元に意見書という形で配らせていただいているのですけど、時間が少なかったもので、今書いておられる方、もし書き終えた方がおられたら、今から集めてもらいますので、それに基づいて討論を進めたいと思います。お名前が書いてあるのですけれども、伏せさせていただき「こういう意見があります」という事から、始めさせていただきます。

最初に私の手元にありますのは「琵琶湖自然浄化プロジェクト」において「琵琶湖の水草・外来魚を考える県民フォーラム」のお世話をされている方です。琵琶湖アーバンリゾートに定住している方で、これまでの体験をもとに次のような提言をいただきました。出来るだけ手間と費用をかけずに川をきれいにすることを基本に構想が進むことを期待しております。また、リゾートマンションの住民がまちづくりに参加していくことができれば、大変うれしく思います。こういうご意見です。

次は、「水流をつくる意味で水車ポンプをつくって欲しい。景観との調和を考えて、そういった事を考えて欲しい。」というご意見です。

それから、水保町に住んで６年になるという方です。自然の多い所と感じました。あちこちでウォーキングして感じました。畑が出来る、土地がたくさんあるのにもったいない。畑作りをしたいと思っておられたそうです。一人では無理ないところがあり、仲間で教えていただきながら、畑作りを出来たらいいなという事を考えておられる方です。

次のご意見は「大川整備構想とオープンミュージアム構想と、どれも素晴しくてワクワクしながら聞かせてもらいました。これからの議論の中でこういった構成がより良く、具体的なものになる事、それが実現し大川周辺の環境が変わっていく事を見ることを楽しみにしています。」です。

「美崎の地域は大変土地の質が良いので、高齢化と共に畑を遊ばせる人が多くなってきています。その畑を活かせる方法を考えてはと思っています。今、多くの人達が引越して来ておられ、ニーズがあると思います。農地をそんな人に使っていただき荒地とならない方法を考えていただきたいと思います。」というご意見です。

そして最後になりますけれど、「美崎の売り物は何ですか、景色ですか、自然ですか、緑ですか、水辺ですか。」というご意見です。

以上が私のところに届いている皆さんの意見書です。これ以外に質問とか意見がありましたら、今言っておきたい事があれば、是非、挙手の上、意見をいただけると有難いのですが何方かありませんか。

（会場から１）意見書に書いていたら、長々して書き遅れてしまったので、口頭でお願いします。

まず、大川の環境学習において、子どもさんの発表聞かせていただきましてありがとうございました。確かに前年度の子どもさんの発表した中で、こんなコメントがあったのです。

「今の大川で僕達は魚つかみや、水遊びをしたいとは思いません」というくだりがあったのです。去年のフォーラム参加者の子ども達の中では。でも、ニュアンスが間違っていたらごめんなさい、今回は「大川の生き物の生活の一部が、少し見えたようで興味がわきました」というくだりがあったのですね。これは、大川プロジェクトの生物調査をお手伝いさせてもらう一人として「やったぁ」という気がして、この取組を継続していく、活力になるような発表を

いただいて有難かったです。

もう一つ、立命館高校の皆さん、お世話になっていますが、大西先生の言葉を借りると「地域住民も専門なものなのや、プロフェッショナルなのや」というような事をいただきましたけれども、全然、地域住民なんて立命館高校の皆さんの視点や知識を持ち合わせている者はおりませんので、全く持ち得ないところの分野では、お世話にならないと仕方がない。「ヘドロセラミックがあんなに簡単に作れる」という話でした。その中の 8P の資料で結果から見えてきた課題や考察の中で、ヘドロセラミックからリンが溶け出し漏れ出したように、これが投入した事で多くリンが含まれているというのがでたのが、これが漏れ出した可能性があるのです、という課題を残したという事なのです。その後の課題の方法としては、浮遊植物にこのリンを吸い上げてもらって、その浮遊植物を大川外に取り出してというような事なのですが、もしかしたら、予防原則、対処療法というような二つの言葉があったら、予防の原則に関して、ヘドロセラミック入れたから、リンが増えたかもしれません。リンはこの浮遊植物に吸い取ってもらいますという、対処療法に見えたというか、感じてしまったのですね。そのヘドロセラミックというのは、リンを溶け出さないような、もっと 700 時間とか高熱にしたらいけるものとか、そういうふうな浮遊植物に取らさなくてもヘドロセラミックだけで、いけるのだという予防を働かせたものは、可能か可能でないか。

（安藤） 他にどうでしょうか。もしないようでしたら、立命館高校の方、質問に対して、すぐに答えられるようであれば、お願いします。

（立命館高校生） 現段階では、これはそんなに回数をやっていないので、実際にヘドロセラミックからリンが溶け出しているかというのは、確証を得ていないので何とも言えないのですけれども、おそらく出ているので、改善するという事も、リンが溶け出さなくするという事も考えつつ、一時的な対処手段として、浮島というプロジェクトも僕らは一緒に平行しているので、植物の栄養になって、植物が吸い取っていくようにして、やっていくだけで、それもまた、欠点を利点にするという言い方が適切かどうか分からないですけれども、そういった方向性も考えていきたいと思っています。

（安藤） どうもありがとうございました。
では、これから議論に入っていきたいと思うのですけれど、まず、今の意見をふまえた形で、手短にパネラーの方にコメント等ありましたら発言願いたいのですけれど。では大西さんから。

（大西） 畑の話がいくつか出ていたので、保津での取り組みでもうちに来ている塾生さん達の中には、以前は貸し農園を借りていたのだけれども、自分達の手には負えないというような意見も結構あって、私も企画すると共に塾生の一人なのですけれども、農家の人に教わるという仕組みを持ち込む事によって、それほど、皆大差なく作物を採れるようになっているので、うまく地元の、農業を作りに来る人の動力を使って、畑を使って地元の方の知恵をかりる。高齢者の方の知恵をかりるというのは、仕組みでうまく出来るのではないかなと思いました。

（市長） 私のほうからは、水の話をさせていただきたいと思います。水車をつくって水の流れをつくる。景観的にもいいですし、そういう案もあるのだと思っています。今、大川は閉鎖水域になっています。元々は野洲川の河口部でありましたので、当然流れていたわけですけれども、閉鎖の改修によって今まだ閉鎖させた水域で、琵琶湖の水位が上がった時だけ、琵琶湖の水が入ってくると、そんな状況だと思うのです。そういう意味では、閉鎖水域で水の水質が悪くなる状況だと思っております。何とか外から水を持ってこられないか、というのは市役所のほうでも色々議論をしています。方法を二つ考えておりまして、一つは上流なのですが、法竜川といいまして、笠原とか中とかあの辺を流れている川があります。近江妙連の公園がある辺り、あの辺りから開発のロイヤルホームセンターとかあの辺りを通って、琵琶湖の南湖に流れ込んでいる川なのですが、この川の高低差が殆どなくて、大雨が降りますと上流で必ず川から水があふれているのですね。道路が冠水したり、ひどい時には床下浸水とか、そういった事もありましたし、そういう雨がつく度に田んぼが浸かっている状況でありまして、畑が出来ないそんな状況も出ています。実は県が管理している河川で、県に要望はしているのですけれども、抜本的な河川改修はかなり困難と言われていまして、今、市から提案しているのは、法竜川の上流のほうからポンプアップを少しして、そこから水路を、既存のものがかなりありますので、それを使って、地球市民の森の上流のほうに流していって、そこから地球市民の森へ繋げて、地球市民の森に流しますと、この大川までつながってきますので、そういった形で水が取れないかなという話をしています。

もう一つは、伊藤自治会長から話があると思いますが、北川用水路といいまして、この速野の辺りの田んぼに水を供給している、非常に綺麗な水が流れている用水路があります。農繁期といいまして、お米を作る時期しか水は流れていないと思います。こちらについて農業をされる方はだいぶん減ってきていて、自分達の維持管理が大変だという話もありまして、今後どういうふうに維持管理をしていこうか、こういう議論がされていまして、ちょうど議論

されているところでありますが、私の思いとしては、田んぼが減ったのであれば、きれいな水の一部を大川のほうに、分けてもらえないかなと、ここは、いろんな交渉をしないといけないので、確実に出来るとは言えませんけれど、地元の理解を得ながら、きれいな水を大川の方に持ってきて、きれいな大川に変えていく、というような事が出来ないのかなと今考えているところであります。いずれにしましても、県と協議をしないといけない、農業をされているこの地域の方々のご理解がなければ出来ませんので、今のは、あくまで私の思いという事になりますが、今こういう事ができないかという事で、市役所の中でも議論をさせていますので、近いうちに今申し上げた形で、実現が出来たらなと思っております。

もう一つ畑の話がありましたけれども、市民農園、非常に本市でも活発です。16 箇所ほどあると思います。「お貸ししますよ」と言ったら、すぐに市民農園については、皆さん借りられてしまうという事で、ポテンシャルが高いのだと思います。もし、遊休農地なり、高齢化されて「うちの農地貸してもいいよ」という方がおられたら、市民農園とか体験農園とか大変効果があるのではないかと思っております。

「おうみんち」が大川のかつての上流にはありまして「おうみんち」は年間 40 万人の人が来ているのですね。ディズニーランドは年間 1,000 万人でしたか、比べものにはなりませんが、市の中で一番お客さんが来る施設が「おうみんち」なのですね。地球市民の森も県が整備しているのですけれども、県のほうも「おうみんち」に来たお客さんを、地球市民の森に連れてこようという事で、ブリッチを、橋をかけたいと、下のほうの工事も、もっとスピードを早めたいという事を言ってくれていますので、是非「おうみんち」に来たお客さんを大川のほうにラフォーレのほうに行ってもらえる、オープンミュージアムを楽しんでもらえる、そういう一体的な空間が作れたらいいなというふうに思っています。

市として、平成 25 年度、来年度、今年の 4 月から新しい年度に入るのですけれども「守山まるごと活性化プラン」というのを、つくっていこうと思っています。これは先程、木村課長のほうから話があったと思うのですが、駅前の活性化というのを今、平成 21 年度からやっています。いま 4 年目を迎えております。所定の効果も出てきていますので、今度は、この考え方を市全域に拡大してまちづくりをしていこうと思っています。考え方といいますのは、地域資源で、自然の資源とか歴史的資源とか、こういうものを活かした活性化をしていく。それによって、地域の魅力をアップさせて地域の皆さんがより一層愛着と誇りをもってもらえるような、地域づくりをしていく。合わせて絆を強化していく。こういう柱で地域全域における活性化というのを考えたいなと思っていまして、この美崎を含めた速野学区の活性化プランというものも、来年、是非、作りたいなと思っています。これは、玉津とか中洲にもつくりますので、例えば、玉津ですと、諏訪屋敷を活かしてどうするか、そんな話も出てくると思いますし、学区をまたいだ連携で、この速野では大川を一つのオープンミュージアムとして、地球市民の森もそうですし、玉津はそういう形とか、市域全域で活性化が図れるかなという事で、まずは、来年度プランをつくって、それを具体に動かしていこうと思っています。そういう意味ではこういうスケジュールで大川プロジェクトを進めていただいておりますので、来年度こういうふうにしようと、計画をまとめていただきますと、26 年度から具体的に行政としても大きく関われますので、ハードの整備とか、スピーディに出来るのではないかなと、思っておりますので、是非このプロジェクトを通じて、美崎の皆様の思いを一つにまとめて、この大川再生に一緒に取り組んでいきたいなと思っております。

（安藤） どうもありがとうございます。

（伊藤自治会長） 皆さんのご意見を充分に把握しきれていないのですが、まずは、一つの概念でくくれないのかな、くくれるのではないかなというふうに思いました。今日ご提案申し上げたオープンミュージアムというこの考え方の中に、今日、いくつかもらいました意見のかなりが入りこめる、整理できる、そんな気がしまして、具体的に議論させていただく価値があるのかなと思いました。どういう事かと言いますと、一つは畑づくりのお話がありましたが、大西さんのお話の中で、まさにエコミュージアムというのは、生活文化、農村文化、もう少し言えば生業みたいなところをしっかりと含んでいる。そういう話がありました。そういう理解をすれば、まさにこの地域のオープンミュージアムという中で、単に自然や生き物の話だけではなくて、生活文化まで広げて整理をすれば、充分どんどん発展させる可能性がある。それから、水車の話なんかもやって見てもいいですよね。今、立命館の生徒の皆さんがやっている話というのは、博物館というのは観るだけではなくて自分達が参画をして自分達自身もどんどん知恵を膨らませてつくりあげていく、というものですから、そういう意味では更に発展形として、進めていけるような道筋を書く博物館を考えれば、これは充分あり得るなという気が致しました。それから、水の中の魚の生き様みたいなものを、子ども達に関心を持ったという話はまさにそういう話ですね。博物館は、対象としうる話が見えたのかなという、そんな気が致してエコミュージアムをこのまちでもっと膨らます事によって、皆さん方が期待されてい

る、望んでおられる、いくつかの答えが出せるのかなという気が致しました。

それから、もう一つですね、美崎らしいものは何やと、価値は何やというお話がありました。これは、もう一杯あると思うのです。私はオープンミュージアムを考え、提案した背景の一つが、この地域のもっている非常に穏やかで、それから静かな雰囲気を壊したくないなと思ったのです。実はある所から、この大川の水面を使って、スポーツイベントをやりたいと、どうですかという話があったのですが、お断りしました。ここは、そんな場所ではないと思いましてね。ここは、穏やかに静かに自然を楽しみ、生活を楽しみ、そういう場所であって欲しいと思いまして、お断りしたのです。そういう所から発展していって、ではここ何が出来るか考えた時に、オープンミュージアムを思いついたのですが、そういう意味では美崎らしい価値のあるものは、そういったところかなと思います。

もう1点だけ喋らせてください。アーバンリゾートのマンションがありますね、あの前にムクロジの木、ムクロジというのは、無患子と書いて、ムクロジなのですが。このムクロジの実の外側をとりますと、黒い種が出てくるのです。これ何かと言ったら、羽子板の羽根の玉なのですよ。中国でこの玉に羽をつけて飛ばすのだそうです。中国ではこれをトンボにみたてて、トンボは蚊を食べる、蚊がいなくなるから子どもは病気にかからない。という事で、この木をムクロジ（無患子）と子どもが患わないという名前をつけたそうです。この木がそこにあるのですね、この話を解説するだけで、中国と日本とのつながり、親が子どもを思う気持ち、ムクロジの漢字について、どんどんと広がっていくのですね。この地域というのは、ハマヒルガオもそうですけれども、少し調べれば非常に価値のあるものが一杯あって、知らないだけ。そういうものを活かせれば、オープンミュージアムとして面白い事にならないかなと思っております。

（安藤） どうもありがとうございました。

皆さん、今のパネラーの方のお話を聞いて「私もこんな事を考えているのです」とか、もしご意見ありましたら、遠慮なくどうぞお願いします。

（会場から２） 琵琶湖アーバンリゾート１番館が出来たのは、平成元年、その時から持っていまして、最近は定住してしまったものです。先程ご紹介いただきました琵琶湖水浄化プロジェクトと、琵琶湖の水草と外来魚を考える県民フォーラム、お世話させていただいております。

私の申し上げたかったのは、今までの中で、一つは手つかずの未成熟の広大な土地だと思います。この地域は。守山にはこんなに広い多くの手付かずの土地があるのかという、私の率直な印象で、出来るだけ大きなデッサンをしていただく中で、よくなればという期待も致します。大川につきましては、私もあちこちで実験をやってきたので、市長さんにも守山にあるNPOがそんな事をやっておるか、ご認識いただくためにも、改めて自己紹介したいと思っております。基本は出来るだけ手をつけないで、お金をかけないで、手間もかけないできれいにしていくと。それを維持するのが基本だと思っているのです。例えば、大川は、網で草をとっていただくようになっただけでも、大変だったと思うのですけれど、それ以前よりはよくなっていますね。けれども、大川が汚いのは、汚濁負荷よりも、自己浄化能力が低いと、だから汚いままなのだと、こういうふうに解釈すればいいと思っております。その時にどうすればきれいになるかという事で、私達の開発した自然浄化システムはお金と手間かけなくて、放っておいても、池をきれいにしてくれる。簡単に言えば水に活力を与えて底質、ヘドロが砂地になっていけば、きれいになるわけですね。水が。そして、汚濁負荷がかかったとしても、その汚濁を自分の力で浄化していく力が出来ていくと、そういう方向性が出せればいいなというふうに思っています。また、改めて、今日資料を持ってきたのですけれど、事務局にお渡ししておきますので、参考にしていただければ有難いです。リゾートマンションに住んでおりまして、平成12年、まだあそこの菜の花、それからひまわりも出来るまで県有地だったものですから、無番地なもので、あそこをリゾートマンションの農園（クラインガルデン）にしようと思って話をしたのですけれど、それは無理でした。私の反省点なのですけれど、リゾートマンション地域にお世話になりながら、過去に自治会へ何度か寄せていただいて、お話もしましたけど、話がまとまりませんでした。従って、自治グループをつくりました。自治会が出来れば地域と連携して、今おっしゃるような問題も参加して言うのですけれど、そうなっていない一端がありまして、申し訳ないのですけれど、そういう方面でも努力したいと、思っているので一言申し上げました。

（安藤） どうもありがとうございました。

（会場から３） この水保に住んだのは、そこの慰霊碑で40年10月18日、私の同期が自衛隊なのですが、亡くなったものですからここへ住んだのです。

もう一つは図書館で防災計画を見て、そういう関係をやっていたものですから、阪神淡路115日現職の職員をやっておりまして。魅力があるなと、防災計画は50万くらい払って作ったもので、守山市の地籍を分析せずに書いています。前の市長が私、意見申し上げて出来たのです。それでここに住んだの

です。カラー写真で標示して、子ども達が年に１回お参りをしている。掃除しているというのを聞いたから、ここに住んだのです。

話かわりまして、そういう防災関係の計画、対策諸々して、今、社協の防災ボランティアコーディネーターで、毎月１回勉強しております。今、この辺の琵琶湖が美しいですが、琵琶湖西岸帯、東南海、非常にこわいです。東南海は、185 年おきていません。琵琶湖西岸帯は、京都に送るトンネルで、石山寺でとまっているのです。神戸から福井まで行くのは。ここは平地ですよね。

そういう面ではちょっと勉強しています。

防災の観点で４つあります。21 ㌻河口部ゾーン、リゾートマンションがありますね、そこは道路ではありません。災害が起きた時に建設機械が行き来する道路です。道路管理は必要ない。通行禁止、歩行者・自転車のみ。防災点として、ここから向こう避難場所が１箇所あります。では、水害が起きた時に向こうに行けるかどうか。という事も向こうの住民が考えておかなくてはいけない。そして、新川、北川避難地域を別れると思います。琵琶湖は液状化が起きます。服部地域まで。この辺だったら 60 から１メートルです。それは資料で出てきていますから。というのは、ここは三角州なのです。そういう事が頭にあります。そして、植物、伊藤自治会長がおっしゃった、ムクロジの木ですね、その他、竹藪、河川の横に土手を崩さないために、そういうのを植えているのです。ある資料では伐採とありますが、伐採する必要ないです。きれいにしておけばいい。そして、エコを楽しむという事で、小学校、高校生諸々、水質を勉強したならばホタルが住めます。時間をかければ。都会の真ん中でやっているよりもっと住めます。静かで街灯がないから。先程、貸し農園でましたけれども、橋の後背湿地というのは、肥沃でこえています。ここから向こうハウスが一杯ありますね。それで商売を立ち上げておられますね。貸し農園はいけると思います。あと、休憩所ができたら、野鳥を楽しむサイクリングロード、ジョキングコース、カヌーが出来ると思います。最後に小学生、高校生、大学生、大学の講師の先生、詳細を分析いただいて、ありがとうございました。

（安藤） どうもありがとうございました。

では、どうしてもという方、ここで言う事ができますから。

（会場から４） では、一つだけ。

高齢者対策というか、自治会でも高齢者という中で、土地の利用で、それから、農業の六次産業化と言われています。「おうみんち」が 40 万人 10 億の売り上げがある。あそこに搬入している人はかなり高齢の方が多くて、非常に高齢者が元気だと。その速野・中洲地区あの「おうみんち」に出荷されている方々の平均年齢、非常に高齢者が元気だと。それが医療費の低下にもつながるし。元気な年寄りが多いという中で、オープンミュージアムがありますけれども、その一環の中で土地の利用と販売、一次、二次、三次産業あわせたら、六次産業、そういうものも少し中におり込んでいただければ、地元が活性化するのではないかと、色々な意見がありますけれども、一つだけ提案しておきます。

（安藤） どうもありがとうございました。

時間がないものですから、そろそろ４時ですので。

少しだけ、5 分か 10 分ほどいただいて、多少議論したいと思うのですけれども。

私なりに皆さんのお話をお聞きして思い出したのです。一昨年、ここでこういった会議を持った時に、地元の方で、非常に心に刻まれたのですけれども、子ども達と何を話したらいいのか、と覚えておられる方おられると思うのですけれども、私は、今日ですね、１年経って一つ回答が出てきたのではないかと思うのです。今日、皆さんのお話を聞いてもらっていたら、分かると思うのですけれども、震災の時に言われましたように、結局はオープンミュージアムを支えていくのは、地域の支援という事もあるのですけれど、人のネットワークなのですね。人の繋がりです。１年間私達が大川活用プロジェクトの活動やってきて、一番感心しているのは、美崎はまだまだ人の繋がりがあってあつい所ということです。ボランティアで皆さんが美崎寄り合いに来ていただいて、自治会役員の方、それから大川活用プロジェクトの委員になった方もいらっしゃいます。そういう方々が、月に一度ボランティアで美崎寄り合いに集まり、話し合いがもたれました。今日の話の一番の基になったのが、資料集の 60 ㌻の表です。この表は、美崎寄り合いの３回ぐらいかけて、参加型のワークショップというのをやって、その意見が集約されているのです。その意見を見ていただくと分かるように、景観を楽しむという意見と、自分の体験もしくは、体を使ったことの記憶を基づき、この大川を変えていきたいという意見です。体を使うことの大切さというか、それに基づく意見が出ていますね。先程、皆さんにいただいた意見の中にも、やっぱり畑をやったらどうかというのは、私の推測ですが、新しい住民の方に、ただ眺めるのではなく、実際に体を動かししてこの地域に関わりたいという意見が根強くあるのではないかと思うのです。私はそう思います。

結局、我々がここでやっていかなくてはいけない、もしくは具体化していくための一つの指針としては、体験型であると思います。畑という事が出ていましたけれども、農業とか、ただ単に景観だけでは

なくて、水を綺麗にするという事だけではなくて、そういう物も含めて、それを作っていく過程で、人がどういうふうに参加しながら、ネットワークをつくっていくか、絆をつくっていくか、という事が大切になります。私が今日思ったのは、大西さんに説明していただいたエコミュージアムとオープンミュージアムの取組は（この二つはほとんど同義なのですけれども）、地域の人達が皆でネットワークをつくりながら、つくっていくものだ、ということです。そういうメッセージが今日のフォーラムの最終的な概念というものになれば非常に良いのではないかと思います。そういう事の中で、いろんなことを、今日発表された事がですね、発言していく事が私は一番必要ではないのかなと思います。その時に忘れたらいけないのは、地域の人と言った時に、大西さんが再三言われたように、とかく我々は忘れてしまいがちなのですが、子ども達、それから立命館高校が、この地域にあるという事が、私は非常に大きな意味があると思うのです。それと、新しく住民になった方々です。今日、このフォーラムでいただいた意見を参考にして、そういう人達がいかに具体的に参加出来るようなプログラム、例えば、畑のことなんかが、スーっとできるかですね。そんな所が、私が聞いていて非常に印象に残った所です。

あまりうまい総括の仕方ではないのですけれど、どう思われるでしょうか。手短に、もしありましたら。

（大西） これは、冒頭から伊藤会長がおっしゃった事ですけれども、「子ども達が」というのが、何度も伊藤会長の言葉からですけれども、その子ども達が、彼らが暮らす中で、色々体験できる環境というのは、あまり環境がないところでは、始まらないと思うのですね。それは、もしかすると、我々大人の一般常識からすると、使わなくなってしまった場所とか、近所の空き地の草原とかありますけれども、そんな所も東京ではすっかりなくなって、住宅地になっていますけれども、そうした部分もこれから、積極的につくっていけるのかなと、そういう接点が子どもと大人の接点になっていくのかもしれないので、これから関わっていいかなと思います。

（市長） 先程、質問の中で美崎の売りは何でしょうという話がありましたけれど、やっぱり人だと思っています。伊藤さんのように素晴しい自治会長さんもいらっしゃいますし、地元の方に熱意のある方が大変多いですし、戸田さんもいらっしゃいますし、他の漁業されている方もいらっしゃいますし、農業を頑張っている方もおられますし、メロンをつくっておられる方もいますので、人だと思いますので、是非、美崎の人の力でこの素晴しいオープンミュージアムを、一緒につくっていけたらなと思いました。

ちょっと２点だけ。

販売を絡めたらどうかと、商業的なものを絡めたらどうかというお話がありましたが、この地域というのは、守山の中でもかなり商業機能のある所だと思います。ピエリさんが頑張っておられますし、あと、ヤンマーマリーナさんがありますね、琵琶湖大橋を越えた所にありますが、あそこにホテルをつくっているのです。17 室しかないのですけれど、結婚式用のチャペル、あと、下にイタリアンレストランを作られていまして、その敷地の中にビオトープをつくったり、琵琶湖岸のヨシ帯をつくったり、かなりこの地域を意識して作られています。実は地域の子どもさんとか、保護者さんとか色々関わっていただきながら、つくりたいとおっしゃっているので、そういう意欲のある方もいらっしゃいますので、オープンミュージアムとあわせると、素晴しい地域になっていくと思います。ラフォーレさんがありますし、ラフォーレの使っていない土地が 10 ﾍｸﾀｰﾙありますので、このオープンミュージアムがきっかけで、ラフォーレさんが動くといろんな施設が立地する、住んでいる方にとっても、住みやすいし、楽しい地域になるのではないかなと思っています。あと、オープンミュージアムで自然を中心にという話がありましたが、自然ももちろんですけれど、そこに美術的なものも芸術もそういったものも絡めたらいいのかなと、思っていまして、彫刻があるというのは、あまりよろしくないかもしれませんけれども、少し現代的な要素も入れていくと、また、人が寄れるのかなと思いますし、例えば、街中とこちらと合わせてですね、ビエンナーレとかトリエンナーレのような、野外ミュージアムで色んな現代美術が見える、そういう展覧会をやっていくとか、それによって人を呼び込むとか、そういった事も出来るのかなと思っておりまして、今後色んな事が期待出来ますので、皆さんと一緒に楽しく取り組んでいきたいなと思っております。

今日は本当にありがとうございました。

（伊藤自治会長） ２点だけ申し上げたいのですが、１点はオープンミュージアムについては、今日は、かなりご理解いただいたかなと受け止めましたが、大川の整備については意見が出なかったのですが、是非とも、この後も折に触れてご意見を賜りたいと思います。

もう１点、この会館の１階で昔の大川写真展と、美崎の歴史年表展をやっておりますが、今日お帰りの時、もしくは、明日もやっておりますので、是非一回覗いて見て下さい。自治会の皆さん方努力をしていただいて、やってもらいましたので、これは、お願い申し上げたいと思います。

（安藤） このオープンミュージアムを、本気になっ

て皆さんが取り組まれたら、当然その中で色んな方が話をされます。何人か高齢者の方に、話を私が伺ってその話の中から、防災的な考えが一杯出ているのですね、ですから、オープンミュージアムを皆さんが真剣に取り組まれるという事は、自然とここの生活を災害から強い地域にしていく事だとか、活力のでる地域にしていく事につながるのだと思います。来年も大川の活動が続きますので、積極的に皆さんご意見を述べていただいて、是非、実りあるものにしていきたいと思います。

今日はお忙しい所どうもありがとうございました。以上でフォーラムを終わりたいと思います。

【閉会】

（敬称略：編集責任　安藤）

写真　パネラー：右から、大西、宮本市長、伊藤自治会長、安藤

V　巻末資料

1 平成24 年度版 里川里湖のまちづくり 実施計画書

大 川 活 用 プ ロ ジ ェ ク ト

美 崎 自 治 会
京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所
立命館守山中学校・高等学校
守 山 市

『美崎寄合』

安藤和雄（京都大学東南アジア研究所・生存基盤科学研究ユニット）

美崎寄合が平成 24 年度には始まりました。美崎寄合では美崎自治会、守山市、立命館守山高校、京都大学（生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究ユニット）の関係者が、毎月の最後の週の火曜日の夕方 7 時に美崎自治会館に集まっています。4 月、5 月、6 月とすでに三度寄合がもたれました。

寄合は日本の古い習慣です。広辞苑（第五版、岩波書店 2005）では、鎌倉後期の北条家の会議にこの会合や集会の名称をたどることができ、室町時代には農民の自治的な会合が寄合と呼ばれていたようです。今ではすっかり都市化しましたが、私の実家は昭和 40 年代前半までは農村の雰囲気が強く残っていた名古屋市守山区にあります。したがって私は村育ちなので、会合とか集会、という名称よりも、寄合がしっくりしています。今でも実家に戻れば、母（82 歳）との会話では、村（今ではすっかり都市化しました）での集まりには「寄合に出かける」とよくいいます。村での会合や集まりには寄合の呼び名がよく似合っているように思えるのです。

寄合という漢字も、その集まりの性格をよく表しています。新漢語林(大修館書店 2004）によれば、寄の字義（字そのものがもつ意味）は、たのむ、まかす、あずける、たよる、期待、などです。合の字義は、同じになる、一つになる（する）、まざる（ぜる）、夫婦となる（にする）、集まる（める）、などです。特に、合は、自分が行動することにも、他人に行動させることにも使われるという便利な意味をもっています。寄、合のそれぞれの字義に、寄合の基本的な性格がよくあわれています。集まった人々の中で、自分も他人によりそっていく、他の人が自分によりそうように向けていくことにあります。話し合いをする場が寄合ですので、異なった意見の人の話をよく理解するように努め、異なった意見の人を説得し、たのむのです（広辞苑五版を参照すると、「たのむ」の意は、お互いが自分を相手にゆだねて願うという意味になります)。つまり集まった人たちが信頼関係をつくっていく意味が寄合には表れていると言えるでしょう。多数決で議決していくような会議のあり方とは異なっています。寄合という言葉には、対立を超えていこうという前向きな「和を尊ぶ」日本文化の基層を読み取ることができるのです。

寄合は漢字ですが、「日中辞典」(小学館／北京・商務印書館 1987)、「中日辞典」(小学館／北京・商務印書館 1992）を参照する限り、中国語（漢字）にもない語彙のようです。きっと日本の村の暮らしのリズムや、文化、習慣がしっかり染み込んだ語彙なのでしょう。美崎寄合は、総勢 20 名近くが集まります。私は会議ではない話合いの雰囲気がとても気にいっています。その中で、いろいろなアイデアが紹介され、計画が決定されました。今後は計画の進展や修正、運営、具体的な大川の将来像つくりなどについて話あいが持たれていくことになります。私が深くかかわっている地域研究、農村開発研究では、住民参加型開発や住民参加型研究の調査研究などの議論が、欧米発信で進められ、私もそこから多く学んできました。しかし、大川活用プロジェクトに関わるようになり、美崎自治会や守山市役所の方々から「守山的住民参加型開発」について経験的に教えを受けています。住民参加型開発や住民参加型調査研究のもっとも大切なことが寄合という呼び方や習慣にあるのではないか、そして、それは少なくとも「村を割り、敵をつくりたくないと願うアジアの村社会」における住民参加型開発事業の重要な運営方法の一つの可能性を具体的に示していると直観しています。平成 24 年度の大川活用プロジェクトの重要な活動として、是非、寄合を継続していければと願っています。

1　「里川里湖のまちづくり」の進めかた

かつて大川は地域に密着した河川でした。そこでは生活のための漁「おかずとり」が行なわれ、また、地域の子ども達が川と戯れる光景が日常的に見られました。

しかし、社会や生活が変化する中、このような関係性は薄れています。また、野洲川改修によって流入水が激減したことで、過去のような流れがなくなってしまい、水草が繁茂する内湖のような状態になっています。

私たちは大川について今後のあり方を検討するにあたり、まずは現在の大川のもつ様々な側面、たとえば「景観」や「水質」、「生物環境」、更には地域の中で大川がどのような役割を担ってきたかをしっかりと見定め、再評価することが重要であると位置づけました。

そのことによって、「里川」としての大川に新たな価値を見いだし、「里湖」である琵琶湖、とりわけ河口部に広がる葦帯や湖辺地帯、更には様々な地域資源とともに、どのようなまちづくりが出来るかをじっくりと考えることにしました。

なお、取組については地域の皆さんを中心とし、学術機関、行政等様々な主体の連携によって進めることを基本とします。

（1）　大川のもつ多様な価値をしっかりと評価します（期間：平成 23 年度から）

- 水質や生物等の科学的調査とともに、地域の中で大川がどのように意識されてきたかを調査します
- また、大川への関心を高める取組も幅広く実施します
- 水草除去等、環境保全には継続して取り組みます
- 実証実験等を通じて改善手法を検討します。また、関係機関等への働きかけを行ないます

（2）　大川を活用したまちづくりについて考えます（期間：平成 25 年度まで）

- 大川や周辺環境を活用したまちづくりの将来像をつくります
- その中で水環境改善目標も取り決めます
- 具体的な取組を全体構想として取りまとめます。また、その作業工程も明確にします

（3）　全体構想に基づく具体的な取組を推進します

- 地域・行政・学術機関がそれぞれの役割を分担し、協働で取組をすすめます
- 必要に応じて検証を行い、取組を見直します

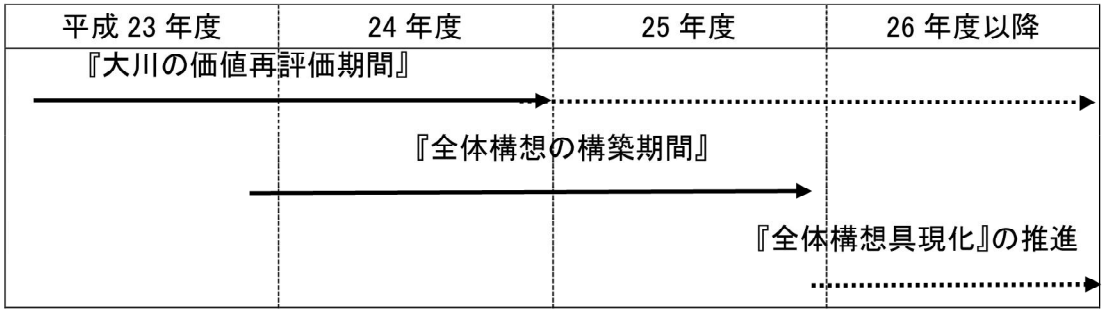


表　全体スケジュール(案)

2 平成 24 年度の取組

（1） 各種調査の実施

- 水質調査（実施主体　守山市）
- 底生生物・水質調査（立命館守山中学校・高等学校）

（2） 啓発活動等の実施

- 「大川の『川の時代』の暮らし聴き取り」事業　（京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所）
- ワークショップ「美崎寄り合い」（美崎自治会他）
- 地域住民や子ども達の大川への関心醸成のための各種取組（美崎自治会）
- 水をテーマにした国際交流（立命館守山中学校・高等学校）
- 大川のつどい開催（美崎自治会、守山市）
- 美崎まちづくり会議開催（美崎自治会）

（3） 環境保全の実施

- 水草の定期的除去（美崎自治会）
- 植生浄化事業（美崎自治会）
- 河川敷の整備（美崎自治会）
- 水質浄化モデル実験（立命館守山中学校・高等学校）

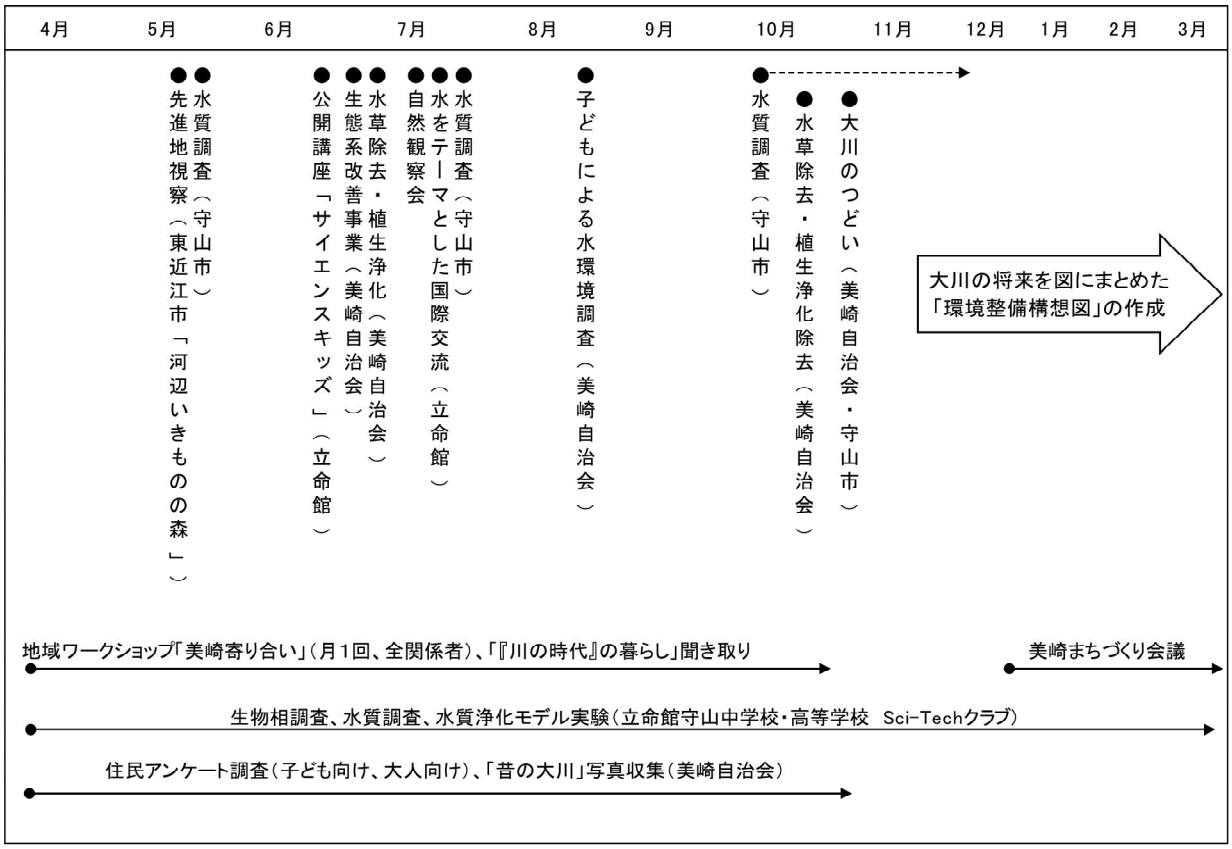


表　平成 24 年度の取組スケジュール

３ 取組毎の概要

（１） 各種調査および水質浄化モデル実験の実施

○ *水質調査*

① **実施主体**　守山市（担当：環境政策課）

② **目 的**

・ 大川の水質の現状把握とともに、水草除去による効果を計測するための水質調査を実施し、今後の取組の基礎データとする

③ **具体的活動内容**

・ 委託業者による水質調査（ＰＨ、ＢＯＤ、ＣＯＤ、ＳＳ、Ｔ－Ｎ、Ｔ－Ｐ、ＤＯ）

・ 調査は測地点毎（上流、中流、下流）の差異や季節変動を明確にするため、３箇所で年３回実施する

④ **実施時期(予定)**　５月（水草除去前）、７月(水草除去後)、10 月以降

○ *水質調査*

① **実施主体**　**立命館守山中学校・高等学校　Sci-Tech クラブ**

② **目 的**

・ 大川の生物相と水質の現状を把握し、季節によってどのように変化するか、水草除去による変化についても調査し、守山市と連携して調査する

・ 生物相について一定の把握ができたところで、特定の生物に注目した研究を行い、「大川のつどい」や「ジャパン　スーパー　サイエンスフェア」等で発表を行う。また、関連の諸取組に積極的に参加する意識を高める

③ **具体的活動内容**

・ 月１回の頻度で水質調査を行う。なお、本年度については、自治会館横、ピエリ前、ラフォーレ横、中洲、琵琶湖岸の５箇所。専門家の指導を適宜受けながら実施する

④ **実施時期(予定)**

・ **水質調査**　４月 28 日、５月 26 日　６月 16 日、7 月 23 日

※８月以降についても月１回実施

（2）　**啓発活動等の実施**

○ ***「大川の川の時代の暮らしの聴き取り」事業***

①　実施主体　　京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所

② 目 的

・ かつての大川を知る地域の高齢者等から、大川が地域の生活とどのように関わってきたのかを、聴き取り調査を行い、明らかにする。

③　具体的活動内容

・ 「大川の川の時代の暮らしの聴き取り」を個別に実施

・ 聴き取り結果を取りまとめ、報告書を作成

④ 実施時期（予定）　　４月から 10 月

○ ***ワークショップ「美崎寄り合い」等（新）***

① 実施主体　美崎自治会住民および大川活用プロジェクト

② 目 的

・ 平成 25 年度に策定する環境整備計画の基になる「未来予想図」（イメージ図）を作成するため、地元住民を中心とした関係者によるワークショップを開催

③ 具体的活動内容

・ 大川の将来（活用策）について意見交換を行い、イメージを共有するなかで、「未来予想図」の作成に向け議論を行う。なお、11 月以降には「美崎まちづくり会議」を開催し、「未来予想図」の作成に取り組む

④ 実施時期（予定）　通　年

○ ***地域住民や子ども達の大川への関心醸成のための各種取組***

（取組　1）子どもを中心とした環境学習（イベント）

① **実施主体**　　美崎自治会（参加者：小学校高学年を中心とした子ども達とその保護者）

（協力）　立命館守山中学校・高等学校　Sci-Tech クラブ（TA として）

② 目　的

・ 子ども達主体の水環境調査や自然観察会を実施することで、環境学習の機会を提供するとともに、地域への関心と愛着の醸成を図る。また、経年的にデータを蓄積し、大川の環境変化を把握する

③ 具体的活動内容

・ 水質調査

・ 底生生物（生物指標）調査

・ 自然観察会

④ **実施時期(予定)**　　７月、８月

（取組 2）生態系改善事業（イベント）

① **実施主体**　　美崎自治会（参加者：自治会員）

② **目 的**

・ 外来魚つり大会や生息魚類の調査を実施することで、地域での大川への関心を高めるとともに、生息魚類の生態系改善にチャレンジする

③ **具体的活動内容**

・ 外来魚つり大会
・ 在来魚の放流
・ 刺し網による生息魚類の調査

④ **実施時期**　　7月15日（日）、8月25日（日）

○ *水をテーマとした国際交流、成果発表等*

① **実施主体**　　立命館守山高等学校 Sci-Tech クラブ、

② **目 的**

・ 立命館守山高校 Sci-Tech クラブと E^3（イーキューブ　ESS）の生徒と水環境調査で連携しているシンガポールの Commonwealth Secondary School の生徒の方々と、「里川」、「里湖」という人々の暮らしと密着した水環境のあり方などについて交流を深める

③ **具体的活動内容（案）**

・ 大川等での調査活動
・ 琵琶湖周辺の施設見学など

④ **実施時期（予定）**　　7月下旬

その他、「滋賀県高文連自然科学部会（11月2日）」、「ジャパン スーパーサイエンス フェア（11月上旬）等での成果発表を予定

○ *大川のつどい*

① **実施主体**　　美崎自治会、守山市（参加者：市民オープン）

② **目 的**

・ 平成25年度に策定を予定している「（仮称）大川環境整備計画」の策定に向けて、大川への市民の関心醸成を図るとともに、自治会内での議論を更に高めていくために、大川のつどい（終日）を開催する。

③ **具体的活動内容**

・ 「昔の大川」写真展
・ 子ども大川フォーラム（「大川の未来」の作画、発表）
・ 環境調査、植生浄化事業の結果報告
・ 大川フォーラム（「大川の未来を語る」）
・ 大川の川の時代の暮らしの聴き取り結果報告

④ **実施時期（予定）**　　11月4日（日）

（３）環境保全の実施

○ *水草の定期的除去*

① **実施主体**　　美崎自治会（参加者：自治会員）　※守山市委託事業

② **目　的**

・ 繁茂する水草を除去することで景観改善に資するとともに、住民自身が作業を行なうことで大川への関心醸成に努める

③ **具体的活動内容**

・ ホテイアオイ等、大川に繁茂する水草の除去。なお、除去した水草については、堆肥化の検討も行なう

④ **実施時期(予定)**　　５月～６月（２回)、10～11 月（１回）で計３回実施

○ *河川敷整備事業(新)*

①**実施主体**　　美崎自治会

②目　的　補修

・大川の環境改善を図るため、グランド横の河川敷の整備を進める。

③具体的活動内容

・法面除草作業

・河川堤の整地

・植樹

④実施時期（予定）　　7 月 22 日（日）

○ *植生浄化事業(新)*

① **実施主体**　　美崎自治会

②目 的

・水質汚染の主たる原因となっている窒素やリン等の栄養塩類の除去を行うため、水生植物を栽培し、これらの栄養塩類を取り込むことで、水質浄化を図る。

③ 具体的活動内容

・水域内に筏状のフロート内でホテイアオイ等の水生植物を栽培し、栄養塩類を取り込む。栄養類を取り込んだ後、成長期が過ぎ、枯れ始めた植物を水域より引き上げる、肥料として農地に還元する。

④実施時期（予定）　　６月～10 月

○ *水質浄化モデル実験(新)*

① 実施主体　　立命館守山中学校・高等学校　Sci-Tech クラブ

② 目　的

・ 河床に堆積したヘドロを焼き固めた「多孔性体」を活用した水質浄化システムの構築に向け、その可能性をモデル実験を通じて検証する

③ 具体的活動内容

・ 実験施設でのモデル実験の実施

④ 実施時期　　通　年（平成 23 年度より開始）

（4）環境整備構想の検討

○ 大川のつどい

①実施主体　　美崎自治会、守山市（参加者：市民オープン）

②目　的

・ 平成 25 年度に策定を予定している「(仮称) 大川環境整備計画」の策定に向けて、大川への市民の関心醸成を図るとともに、自治会内での議論を更に高めていくために、大川のつどい（終日）を開催する。

③具体的活動内容

＜Ⅰ部＞

・ 子ども大川フォーラムの開催
・ 「昔の大川」写真展
・ 大川の川の時代の暮らしの聴き取り結果報告

＜Ⅱ部＞

・大川フォーラム（「大川の未来を語る」）

④実施時期（予定）　　11 月 4 日（日）

2 大川活用プロジェクト　平成 24 年度活動記録（25 年 1 月まで）

日	活　　動	概　　要
4月 24 日(火)	美崎寄り合い※1(第 1 回)	・本年度の取組計画について
28 日(土)	立命館守山高等学校 Sci-Tech 部(第 1 回) 水質等調査（水質改善の実証実験※2）	・3 箇所（上・中・下流ﾎﾟｲﾝﾄ）での底質調査、底質調査及び実証実験の実施
5月 22 日(火)	美崎寄り合い （第 2 回）	・視察研修について
26 日(土)	「河辺いきものの森(東近江市)」視察研修	・ｵｰﾌﾟﾝﾐｭｰｼﾞｱﾑ先進地視察研修
30 日(水)	市による水質モニタリング調査(第 1 回)	・上～下流　3 ﾎﾟｲﾝﾄで実施
6月 2日(土)	立命館守山　水質等調査（第2回）	
10 日(日)	植生浄化実験用いかだの設置	・ホテイアオイ、空心菜を活用
26 日(火)	美崎寄り合い （第3回）	・「古き良き時代の大川の姿」の振り返り（1）
7月 22 日（土）	大川清掃活動（第 1 回）	・水草除去等、60 名参加
24 日（火）	美崎寄り合い （第4回）	・「古き良き時代の大川の姿」の振り返り（2）
27 日（金）	立命館守山　水質等調査（第3回）	
8月 2日(木)	市による水質モニタリング調査(第2回)	（第 3 回、平成 25 年 2 月を予定）
24 日(金)	美崎寄り合い （第5回）	・「将来構想図」の取りまとめ(1) ・参加者による「現場踏査」の実施
25 日(土)	子ども環境学習会	・水質、生物、植生調査等 ・立命館守山中学・高等学校サイ・テック部による指導
9月 25 日（火）	美崎寄り合い （第6回）	・「将来構想図」の取りまとめ(2)
10 月 13 日（土）	立命館守山　水質等調査（第4回）	
16 日（火）	美崎寄り合い （第7回）	・「将来構想図」の取りまとめ(3) ・フォーラムについて(1)
23 日(火)	美崎寄り合い （第8回）	・「将来構想図」の取りまとめ(4)
28 日(日)	大川清掃活動（第2回）	・水草除去等、20 名参加 ・植生浄化実験用いかだ撤去
11 月 13 日（水）	美崎寄り合い （第9回）	・「将来構想図」の取りまとめ(5)
25 日（日）	大川清掃活動（第3回）	・水草除去等、25 名参加
28 日（水）	美崎寄り合い （第 10 回）	・「将来構想図」の取りまとめ(6)
12 月 18 日（火）	美崎寄り合い （第 11 回）	・「将来構想図」の取りまとめ(7) ・フォーラムについて(2)
1月 10 日（木）	美崎寄り合い （中核メンバーによる臨時）	・フォーラムについて(3)
19 日(土)	第 2 回大川フォーラム　～これからの大川を語る～　開催	

※ 1　美崎寄り合い：大川プロジェクトメンバーによる協議の場。毎月第 4 火曜日午後 7 時から美崎自治会館を会場にワークショップ形式で開催。平成 24 年は「大川の将来構想」作成を実施中

※ 2　実証実験：大川河床の泥を焼き固めてセラミック化した多穴質の「ヘドロセラミックス」を活用した、水質浄化の試み